

アニュアルレポート中国 2011



建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

（創造行為）

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく 創造行為として業務を行います。

（公正中立）

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

（たゆみない研鑽）

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

（倫理の堅持）

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持す。
社団法人日本建築家協会（J I A）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、J I Aは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■2011 年度 中国支部 総括

支部長 山田 暁

■副支部長発

「一年を振り返って」

副支部長 佐藤正平

「もう一度考えてみよう」

副支部長 前岡智之

「UIA 2011 東京大会」

副支部長 矢田和弘

■地域会会長発

岡山地域会 藤田佳篤

広島地域会 垂井俊郎

山口地域会 三村夏彦

島根地域会 龜谷 清

鳥取地域会 塚田 隆

■UIA2011 東京大会に寄せて

前支部長 村重保則

■中国支部大会

「第6回 JIA 中国支部建築家大会 2011 in 福山」

・実行委員長コメント 大会実行委員長 垂井俊郎

・内容報告

■第3回 J I A 中国建築大賞 2011

・審査報告 山口地域会会長 三村夏彦

・総評 審査委員長 内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告

中国支部

岡山地域会

広島地域会

山口地域会

島根地域会

鳥取地域会

■J I A 中国支部組織表

■J I A 中国支部会員リスト

2011 年度 中国支部 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 山田 暁

昨年、2011 年は日本にとって大変な災害が襲ってきた年でした。東日本大震災、原発事故、集中豪雨により、多くの人々の日常生活が奪われたまま、いまだにその状態が続いています。

2011 年 3 月 11 日午後、私が事務所で仕事をしていた時、スタッフが東北で大きな地震が起こったようです、インターネットにそのような書き込みがありますと、言い出した。事務所のテレビをつけると、そこで見た映像はご存知の津波が押し寄せてくる、リアルタイムの映像でした。それから 1 年経つ今日まではめまぐるしい 1 年間でした。建築とは何か？建築家とは何者か？それを自問する 1 年間でした。その答えは出たかと言えば、う～ん・・・といったところです。個人的にはまだまだ悩み続けなくてはと思っています。

さて、この大災害にあたり、全国から多くの団体、個人からの支援の輪が広がっていきました。東日本大震災に対しては日本建築家協会としても災害対策本部を早々に立上げ現地での復興のお手伝いをしています。ただ、これからが問題で、いかに息の長い活動として続けて行けるかです。また続けて行かなければなりません。これらの災害を自分の事として考えなければなりません。後世、この対応によって日本人、日本社会のアイデンティティが形づくられると考えるからです。災害にあわれた方々には改めてお見舞い申し上げます。

2011 年度 J I A にとっての大きな出来事に U I A 東京大会があります。まずは成功裏に終わってほっとしています。個人的には、いろいろ刺激を受け、思い出を造り、良かったな～ というところですね。

もちろん支部としてはどうだったかは、今後、どう生かしていくかだと思っています。

さて、本年は日本建築家協会（JIA）にとっては重要な年になります。公益社団法人移行に向けて最後の組織整備を行い、法人認定の手続きに入っていきます。公益性のある全国単一の団体として、ますます社会に向かって貢献を行っていかねばなりません。職業を通じて、町づくり、町並みづくりに貢献できたらと考えます。さらに、それらを通じて若い人に、建築設計は夢のある職業だと伝えたいとも考えています。

JIA 中国支部としても、建築家として地方ならではの活動（建築文化の創造）に貢献できたらと、強く思っています。

副支部長発

■「一年を振り返って」



中国支部副支部長 佐藤正平

2011年度は、心に何かがずっと引っ掛かった状態の中で、何かと気忙しく、やきもきし乍らも足早に過ぎ去った一年であった。その訳は、個人的な理由もあるだろうが、やはり大震災が皆の心に齎した傷跡と、一向に進まない復興への焦燥感からかもしれない。そうした中ではあったが、一年を振り返ると本年度も JIA 中国支部の活動は盛り沢山で内容の濃いものであった。

主な事業としては、UIA 東京大会への参加、JIA 中国支部建築家大会 2011 in 福山、第3回 JIA 中国建築大賞の実施などであった。

UIA 東京大会では、中国支部として52名の多くの参加を得ることができた。世界最大の建築祭が日本で初めて

執り行われるということで大いに期待され、興奮を呼ぶものであった。特に天皇皇后両陛下のご臨席を賜ったオープニングでは、両陛下がお目見えになるやいなや、参集した建築家5千名程が同時に起立敬礼し、尊敬と親愛の礼を尽くした時は大変な感銘を覚えた。またメタボリズムの未来都市展、東京建築士会による東京を創るなど、各ブースの展示は充実したもので大変勉強になった。

JIA 中国支部建築家大会 2011 in 福山では、山崎亮氏に講演して頂き、コミュニティ形成に関わるデザインの問題、都市環境デザインなど、建築をつくることの枠を広げ、人と人、企業とグループ、公共と市民などの積極的協働が合意形成を育み、それが新たな「場所」の創出に繋がっていく可能性を改めて感じた。

第3回 JIA 中国建築大賞は、一般建築、住宅部門合わせて応募総数21作品であった。一般建築部門では、本年は残念ながら大賞該当作品がなかったが、賞に選ばれた作品はいずれも力作であり、地域の建築家が地域文化に捧げた情熱の賜物であった。

■「もう一度考えてみよう」



中国支部副支部長 前岡智之

副支部長を引き受けて2年が経った。昨年度の“さあ始めよう”をエネルギーとして可能な限り、活動に参加した。支部組織プロジェクト委員会、UIA特別委員会、交流部会、住宅部会、まちづくり部会の5委員会・部会を担当する副支部長として山田支部長の補佐を勤めてきた。

○ 支部組織プロジェクト委員会の下、JIAが公益法人化することに呼応して定款等を改正し組織的に再構築されることに対して、支部規定等検討特別委員会が設置され、当面する次年度の役員改正と整合させながら今後の支部、地域会規定の改正に向けての検討を行った。

○ UIA特別委員会は、多くの会員の参加を得て盛会裏に終わった。

○ 交流部会では、いろいろの事業の側面で参加いただくと共に、自らの事業に対して個別に対応するよう意識した。

○ 住宅部会では、例年通り他団体のイベントに参加した。

○ まちづくり部会としては、特に活動はしていない。

個人的には、友人達とく広島市中央公園アイディアコンペに参加し、全国から応募をいただき、賛助いただいた

広島市民の人気投票により入選者を選出した。この活動は地域会を経由した支部の後援事業であり、支部長方針“地域会の地域に根ざした活動への積極的応援をしていく”に通じることとなった。

これらの活動を通じて多くの会員の方々とお会いすることができた。何人かの人達とは、酒を酌み交わし様々な考え方も知ることができ、有意義であった。

しかしである。時々支部の会員名簿をめくるが、そこにある顔写真には、ここ2年間に一度もおめにかかっている方が半数近くある。

参加してもしなくても別に困らないし、いつの間にか時間が過ぎるし、会員であるという称号はいただける。役員リストや委員会所属も綿密に決められているが、忙しいので出られる時だけでればいい。誰かがやってくれる。

もう一度考えてみようよ、情報には目を通そう。案内がきたらすぐ返事をしよう。そして参加しよう。お話ししよう。顔を合わせよう。たまには酒を飲もう。

■「建築に対する意識を変えよう」



中国支部副支部長 矢田和弘

2008 トリノ大会参加は、イタリア各地の視察旅行になりましたが個人的には懐かしい旅で有意義でした。東京大会参加の3日間は「千人茶会」以外は殆どメイン会場「東京国際フォーラム」の各種プログラムに参加しました。

各国の著名な建築家の講演は興味がありましたが、クリストの講演内容と作品は私には理解できませんでした。日本の建築家の講演は外国の参加者にも人気で、私の隣の黒人女性は妹島さんの話を速記で殆どメモしていました。今回はアフリカ南部の数カ国が一体となり南アフリカで開催なので、アフリカからの参加者が多く、タンザニア生まれの建築家デヴィッド・アジャイの講演は、アフリカ大陸の建築や街並みを、大陸を大まかに分類した視点からの内容で得心しました。

また、BCS建築セミナー「日本の建築」は、伊勢神宮式年造営庁の中村さんの「式年遷宮」の話し、宮大工の小川三夫さんの「棟梁の心」、大林組の水本さんによる「桂離宮から京都迎賓館へ」など含蓄ある内容でした。

後半の後藤治さん等、建築史の学者による「日本の建築

地域会会長発

■岡山文化・歴史などを継承していくテーマでセミナーを継続しています。 今年度は下記の内容にて行いました。 岡山地域会 藤田佳篤

□岡山弁護士会会員との意見交換会 6/17 (金)

市民の身近な相談相手であり、高い倫理性を持って活動されている弁護士会の方と「地域に関わることから町づくりまで」の意見交換を行いました。そしてお互いの社会的立場を理解し合って今後の連携を深めていくことを目的としています。

□岡山デジタルミュージアム「都市博物館」の役割

8/26 (金)

岡山の歴史と今を記録し、次世代へと引き継ぐ博物館の中を案内して頂き、続けて飯島主査に「都市博物館の役割

■「ひろしま」 広島地域会 垂井俊郎
これから、さらにチャレンジ精神を持ち、地域会の夢を描く：視点を明らかにして活動をします、不易流行の組織：日本建築家協会は巨匠の時代からその理念と活動を卓越した人達で担い第24回世界建築大会を2011年9月26日から28日まで「UIA 東京大会」を開催しています。折し

のころ」と題した鼎談は、建築を通して日本らしさを考える内容で共感を覚えました。また、会場至る所の展示も見応えある内容でした。

3日目の最後は、ラファエル・ヴィニオリの協力者として「東京国際フォーラム」の設計に関わった、椎名政夫さんのスタッフに案内して頂き、約1時間半145000㎡の巨大施設を見学しました。世界有数の5012席を誇る大ホールAの広いステージから見る客席は圧巻で、開会式の両陛下にはどの様に映ったのでしょうか。ヴィニオリのコンペ案は図面の段階では高い評価を得ていなかったのですが、後に模型が示されて一変したとの説明は、全館の詳しい説明と案内により良く理解できました。

ウルグアイ生まれのヴィニオリは少年の頃、アルゼンチン生まれで世界を代表するピアニストのマルタ・アルゲリッチと並び称されるほどピアノが上手でしたが、彼女には叶わないとピアニストを諦め建築家の道を進み、この「東京国際フォーラム」以降世界各地で活躍する世界を代表する建築家の1人となりました。

コンペやプロポーザル参加に、実績など問わなかった良き時代の話です。(50カ国395作品応募のUIA公認コンペ) 昨年の秋、福山大会で出江さんとそんな話をしました。

と可能性」についてお話をして頂きました。

□三石耐火煉瓦を訪ねて 10/26 (水)
備前市にある百年企業の老舗メーカー「三石耐火煉瓦」では、地元で採れる良質の原料(ろう石)で作ったレンガを製造しています。時間を刻むほど味わい深くなる材料であり、積極的に地産地消の材として建築に使用したいと注目している。

□大学教育と建築について 3/16 (金)

これからの文化・歴史を継承する人材育成を行って県立大・理科大の建築系学科で教壇をとられているプロフェッサーアーキテクトの2人の先生と建築・文化について語る場を設けました。JIAとして教育の場とも今後は連携と連帯を図履帯と思います。

も2011年3月に東日本で起こった大災害から6か月半目にあたります。そこに世界中の100を超える国や地域から、約5千名に上る建築・都市分野の専門家と学生諸君が集まり「災害を乗り越えて」の議論を交わし「環境」「文化」「生命」の三つのテーマに分類されています。私たちは、これに学び、連援し、行政機関等と共同して社会と帯し、認識を深め、建築家と建築を支的不公正のギャップを

無くし、すべての人々が地域に根差した生活の質の向上を図ることができるような、持続可能な未来をめざします。ひろしまは、記念イベント「広島の啓示」白井晟一・イサム・ノグチ・磯崎新オリジナル作品の公開を企画しています、UIA 大会レセプション・森美術館での磯崎新のオマー

■「制度と課題」 山口地域会 三村夏彦

萩市の構成資産が平成21年に「九州・山口の近代化産業遺産群」として世界遺産暫定一覧表に登録されている。「萩反射炉」「恵美須ヶ鼻造船所跡」「萩城下町」「大板山たたら製鉄遺跡」「松下村塾」等、5つの遺産である。平成24年度に世界遺産への登録準備作業を終了し、翌25年にはユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出できる様、世界遺産推進課を設け作業を推進している。予定では平成26年にはイコモスの調査・審査をへて、翌27年のユネスコ世界遺産委員会において、決定されるという目論見である。

その萩市の三角州内旧市街地は全域にわたり、藩政期時代の町割・道筋がほとんど残在している。そして多くの古民家も残ってはいるが、片や少しずつ目に見える形で取り壊されていく現状がある。3月中旬に我社が担当し、竣工した老人福祉施設も、解体寸前のところで、幸運にもリフォームすることになり、再生した古民家である。しかし住宅からの用途変更による確認申請の段階で、古民家としてはしっかりした基礎廻りであったが、鉄筋コンクリート

■今年度の活動について 島根地域会 龜谷 清

島根は東西に長く会員数も少ないことから、地域会としての独自のまとまった活動をどのようにしていくのかは課題があります。そのような中、平成23年度は、鳥取地域会や他会との連携を図りながら以下の活動を行いました。

○「City Switch 2011 出雲」(活動報告にて紹介)

○「出雲大社見学会」(日本建築学会中国支部島根支部と共催):平成25年の遷宮に向けて工事中の本殿の見学、古代出雲歴史博物館でのワークショップ等

■『鳥取発』 鳥取地域会 塚田 隆

23年度の鳥取地域会は、UIA東京大会に全員登録、全員参加をいたしました。事業としては、島根地域会と共同で、『ユニットケアを支える居住空間のあり方』セミナーを開催いたしました。

ジュは現代美術館に入館されています。岡河貢氏にお世話になっています、会員の一人ひとりにはたゆみない研鑽と高い倫理観のもと、地域社会に職業をとうして貢献します。これからも建築の価値を守り、未完の都市の広島に挑み続け、「まち・文化の育成」に努めてまいります。

基礎を打ち、開口部の多い快適な縁側廻りの一部に、筋交い補強を挿入したりした。

国交省主導による「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会」も本年度はいよいよ3年目のまとめの年であり、これまでの数々の実験により、石場立て工法や伝統的木造仕口の有効性があきらかになる中、今年度中にはそれらの成果・方針が公表されると聞いている。山口県は地震地域係数が0.8で地震が少ないという認識であったためか、全国的に見て、住宅の耐震化率が非常に悪かった。その様な中、先週末に山口県による「無料耐震診断員派遣方式」の講習会が開かれた。平成24年度から山口県の全額補助により、無料で民間住宅の耐震診断を行っていることになる。

「一般診断法」により評価をするということであるが、ごぞんじのように評価マニュアルによると、伝統的構法の古民家は非常に厳しい結果に片よる恐れが想定される。

多くの依頼者の不安をあおり、古民家の解体が加速されないように、我々診断員にも十分な説明が求められるところである。

○「ユニットケアを支える居住空間のあり方」セミナー(鳥取地域会との共催)

平成24年度は、「中国建築大賞」担当地域会であり、鳥取地域会との共催の「中国支部大会」もあります。まずは地域会の役割をしっかり果たしたいと思います。

私たちはほんとに大きな時代の変化の真っただ中にあります。島根という地域の特色を生かしたこれからの「建築家」の在り方を会員の皆さんと考えていきたいと思ひます。

UIA2011 東京大会に寄せて



中国支部前支部長 村重保則

2011年度の中国支部アニュアルレポート発刊に向けて、昨年のUIA大会における支部内の活動や取組についての記録を綴る。

まずはじめにUIAについて簡単に述べると、UIA(国際建築家連合)は1948年にスイス ローザンヌにおいて国籍・宗教あるいは建築的信条を問わず世界中の建築家を束ね、その国を代表する組織を連合するために設立された。

設立当初の参加は27ヶ国であったが、現在では123の国と地域の建築家職能団体が加盟し、130万人を超える建築家の団体となっている。

UIAが目指すものは、建築家が世界の生活状況や環境を改善するうえでより良い役割を果たせるよう様々なアイデアや理念を対比し、互いの経験を共有し、知見を広め、互いから学びあうことである。組織構成はその使命を遂行するために、常にその代表者とコンタクトが取れ、国際的なレベルで同様な関係を民主的・共同的な方法でマネジメントできるように構成されている。

UIA大会は3年ごとに開催される世界の建築の祭典である。今回は2008年9月にイタリア トリノで開催された。この時には中国支部からもツアーを企画し、15名の参加を得た。今回の東京での大会開催が決定されたのは前々回の2005年トルコ イスタンブールでの開催時であり、当時のJIA第8代会長小倉氏のもと、翌年2006年JOB(UIA東京大会 日本組織委員会)が発足した。

大会開催に係る経費約8億円については、支部長であった私も理事として参加した「本部理事会」でJIAが(万が一、赤字の場合にも)全ての責任を負うことを決定した。この前提があったため、私は支部長の任期を終えてからもUIAの担当を継続させていただき、寄付金や参加者の勧誘に携わったのである。大会全体の概要、テーマ、予算等が開催前年2010年に発表され、計画は推進されてきたが、2011年3月、思いもかけぬ東日本大震災の発生により、開催そのものが危ぶまれ、侃々諤々の議論の末、開催実施を決定した。しかしサブテーマも「災害をのりこえ、一丸となり、新しい未来へ!」と改め、全体予算も8億円から6億円に、参加予定人数も1万人から3千人へと縮小して対応せざるを得ない状況であった。

私ども中国支部に対する本部からの要請は、参加登録者数73名、寄付金総額220万円という結構厳しい数字であったが、私なりの独自の判断で支部内での登録者数を経験値から推測し、73名に対して53名、220万円には200万円と設定し、その数値と各地域会別の会員数で按分して地域会の協力を得、2010年末から2011年3月末までにそれぞれほぼ予定通りの数字を達成することが出来た。数字云々はとにかく重要なことは、何よりの悲願であったUIA東京大会が開催出来たことにある。成功裡に終わったことは日本の国際的立場が認識された証であり、次・次々世代を考えると、建築家の存在を国内、国外を問わず社会に呼びかけることは私たちの務めであると考えてる。

日本における建築家の職能確立を目指す団体運動の長い歴史の中で、1955年第4回 オランダ ハーグでの国際建築家連合(UIA)総会において当時の(旧)日本建築設計監理協会の加盟が認められ、ここで初めて世界の建築家の仲間入りを果たしたのである。1991年にはアジア建築家評議会(ARCASIA)にも加盟、積極的に情報交換・収集をする中で、欧米を中心にアジアにも広がりつつある、建築設計コンサルタント業務の自由化、建築家資格の統一化という国際情勢の変化を察知しながらもなお、足踏みを続けている現状である。しかしながら、職能問題解決、文化向上のためには建築家同士の国際交流が欠かせないということはだれもが肌身に感じているところである。先達の夢であったUIA大会を機に日本でUIA基準の、世界に通用するアーキテクト国家資格制度の実現を目指して行きたい。いろいろな御意見もあるでしょうが、その是非論より地球国家の一員として建築家資格制度の一日も早い成立を願ひ、この大会へ参加・寄付をされた支部内の諸兄に感謝し、今後のUIAとJIAの発展を祈念し報告申し上げる。

最終結果報告

中国支部	参加登録人数	52人
寄付金総額	200万円	
JIA全体	参加人数	海外:約1900人 国内:約3200人
	総登録者数:	約5100人
事業費総額	約6億円	

第6回

JIA 中国支部建築家大会 2011 in 福山

■ 実行委員長コメント



大会実行委員長 垂井 俊郎

JIA 中国支部大会は2006年度から始まり昨年度の第5回から2巡目に入っています。山田支部長にとっては二年目の大会であります、主幹は広島地域会の備後の若き精鋭たちが担います、その企画書を見て確信したものです。そのテーマは「人・まち・建築」です。昨年は倉敷市的美観地区周辺を選定して行われています、このたびは、歴史文化のあふれる備後のまち、変動する福山市に支部会員が参集し、地域市民と交流し、協働の仕組みについて、再活性化デザインの手法を学びます。建築の力、資産価値を伝え活用していくための方法はいかなるものなのか、まちの資源の活用と、継続性について考えます、よくばりメニューで取り組んでみます。ハコモノ施設をつくり、その後の時間の経過があつて、次代に受け継がれ、使い続けられることにチャレンジ精神を発揮しようとするものです。地域力の再生に、貢献しようとする大会に仕立てています。

会場まで足を運んでくださった方々には、何らかのメッセージを受け取っていただき親睦を計って頂けたなら幸いです。

2日目は、デザインフォーラム・JIA 中国建築大賞の発表・好評と講演会です。ツアーは鞆の町並み散策と藤井厚二の建築に触れ、想いをはせての楽しいお茶の時間を過ごしています。ここで、記者に「藤井厚二の作風」について問われたものです、大会に終日、出江さん、倉森さん、お付き合い頂いています。

大会のテーマに導かれ多くの方と交流もあり収穫の多い大会となったと感じています。

基調講演&トークセッション「人・まち・建築」での講師：コミュニティデザイナーの山崎 亮氏は、実践されていますプロジェクトの映像シーンをユーモアを交えて解説され、地域力の再発見、都市空間の活用と価値を知らしめます、人を繋ぐ達人は優しいまなざしで202名の参加者を魅了しています。セッションでは福山市、大学関係者、会員建築家で構成されたパネラー陣に参加者、市民との交流も為されています。

2日目のデザインフォーラムのプレゼンターは自作の紹介をされています、河口圭介、土井一秀、濱田昌範、の各氏とコメンテーターの JIA 元会長の出江 寛、山田 暁、龜谷 清の各位にご意見と優しい講評を頂いています。

JIA 中国建築大賞 2011 の審査委員長であり講演会の講師は大会の顔です、東大教授・建築家 内藤 廣 氏です。実行委員会の今川、安達、園田、後藤、河上、川口、龍野、鮫島、藤本、平林、佐藤、水上、各氏には企画会議に始まり綿密にして周到なる運営を努めて頂いています。中国新聞 11 月 27 日朝刊に「鞆サンルーム価値確認」建築家協会中国支部の40人見学「細い材が藤井の作風」藤井の設計と判明したサンルームを見学する建築家たち、と掲載頂き。年明けの1月29日の朝刊では「変動福山駅前⑤再デザイン・市民結ぶ仕組み不可欠」日本建築家協会中国支部は昨年11月、市民の活動場所「ガーデン」を考案した山崎亮・京都造形美術大教授(38)の講演会を開いた。山崎さんはガーデンの利点を2点挙げた。①市民団体は活動を広げる機会を得る②テナントは客が催しのついでに立ち寄る。と掲載、中国新聞備後本社の水川記者、山成記者に建築家協会中国支部としここに御礼申し上げます。大会に参加頂いています県内外の市民、学生、会員、交流部会の方々に深く感謝申し上げます、また次回の大会に期待をよせまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

支部大会については JIAmagazine277FEBRUARY2012 支部便り・中国支部に詳細に掲載されています。

■ 内容報告

□ 大会概要

日時：2011年11月25日(金) 26日(土)

会場：まなびの館 ローブコム 4階大会議室

後援：広島県

福山市 ふくやま美術館

(社) 広島県建築士会

(社) 広島県建築士事務所協会

(社) 日本建築学会中国支部

(社) 日本建築構造技術者協会中国支部

(社) 日本建築積算協会中国支部

(社) 日本商環境設計家協会中国支部

□ プログラム

25 日 (金)

13:30 *開会

13:50-17:30 基調講演&トークセッション
「人・まち・建築」

講師：山崎 亮 氏

18:30-20:30 懇親会

■ 基調講演&トークセッション「人・まち・建築」



コミュニティデザイナー 山崎 亮 氏

前半ではコミュニティデザイナー山崎亮氏による基調講演、後半は建築家を中心に福山市や大学関係者で構成されたパネラー一人が出揃い、山崎氏とまちづくりをテーマにトークセッションしました。

山崎氏は時代を捉えた視点の切替えや価値観の転換をすることで変化をもたらすことができる可能性をユーモラスに解説されました。人をつなぎ、人を動かすことで、それまで不可能と思われてきた事を実現してきた仕掛人である山崎氏のプレゼンテーションには、説得力だけでなく人をワクワクさせるような不思議な魅力があり、新たな可能性を感じさせられた貴重な時間となりました。



26 日 (土)

9:00-10:40 デザインフォーラム

10:45-12:45 JIA 中国建築大賞 2011

入賞発表・作品展示

審査講評：審査委員長 内藤 廣 氏

講演会

講師：建築家 内藤 廣 氏

14:30-18:30 オプションツアー

鞆の浦街並み散策

JIA 中国支部建築家大会 IN 福山 2011 人・まち・建築



■デザインフォーラム

・コメンテーター

出江寛 氏 山田暁 氏 龜谷清 氏

・プレゼンター

濱田昌範 氏 『重井の平屋』

河口佳介 氏 『大山の家』

土井一秀 氏 『STONE TERRACE』

3名の建築家それぞれの個性が建築に表れており、周辺環境や施主の生活スタイルなどの与条件を多様な捉え方で巧みに表現されていました。出江氏を中心とするコメンテーター陣は若手建築家への可能性を期待しながらも、建築の本質的な姿を見失うことのない設計を心がけるよう説かれていました。

■基調講演『地域と建築』／建築家 内藤廣 氏
現在の日本の状況、東日本大震災の実態などに着目し分析することから、これからの建築家の役割や、それを実現するための社会のあり方など広い観点から、地域と建築の関係性や可能性をお話いただきました。

■オプションツアー 〈鞆の浦まち並み散策〉

対馬楼や太田家住宅などの観光名所から藤井厚二設計の住宅など知られざるスポットまで、地元建築家を中心に企画運営した福山大会ならではのツアーとなりました。鞆の浦の歴史や文化に触れ、あらためて自分たちの街や建築のあり方を考えさせられる時間となりました。



第3回 J I A中国建築大賞2011

■ 審査報告



JIA 中国建築大賞実行委員長 三村夏彦

J I A中国建築大賞も今年で3回目となりました。過去2回と同様に、応募作品は最近10年以内(2001年1月から2010年12月まで)に竣工した建築作品で、一般建築部門・住宅部門の2部門です。

審査委員長は引き続き建築家内藤廣先生、審査員は建築家倉森治先生、建築家錦織亮雄先生をお願いをしました。

応募は7月1日～8月12日まで行ない、全国の建築家から一般建築部門は14作品、住宅部門は7作品の合計21作品がありました。

一次審査(提出ファイル審査)通過作品は、一般建築部門は5作品、住宅部門は3作品でした。9月中旬に厳正な現地審査が4日間に渡り行なわれ、一般建築部門優秀賞5作品、住宅部門は大賞1作品・奨励賞1作品が選定されました。

11月25・26日に開催された「J I A中国支部建築家大会 in 福山2011」にて入賞発表を行ない、審査委員長の内藤廣先生、審査員の倉森治先生、錦織亮雄先生の講評と大賞受賞者による作品説明が行なわれています。受賞者の表彰式は2012年4月の中国支部総会にて執り行なわれます。

本年度実行委員会は山口地域会の引受期でありました。今回も過去2回と同様に募集を行なったつもりでしたが、応募総数が21人と少なく、前年と比較し7割程度にとどまったのは、反省をしなければならないところです。過去10年の作品という規約の中での3年目という事で、対象となる絶対数の減少なのかとも考えましたが、定かではありません。

又本年は一般建築部門の大賞が、初めて該当者なしとなりました。東北大震災後、復興へご尽力されている内藤廣審査委員長の様々なお考えの中でのご判断ですが、総評の中で「得心の行く作品がなければ、あえて大賞を出さないことも委員長としての責任ではないか」と述べられています。

大震災後、現地での様々な状況に向き合われているお立場を考えてみると、建築に対する哲学に対し、改めて向き合われている様にも想像されます。そして我々中国地方の建築家に対しても、同様に何かを問われている様に思われてなりません。

■ 審査委員

審査委員長	内藤 廣 (建築家・東京大学名誉教授)
審査員	倉森 治 (建築家・JIA 名誉会員)
審査員	錦織亮雄 (建築家・JIA 名誉会員)

■ 総 評

審査委員長 内藤 廣
(建築家・東京大学名誉教授)

3月以降東北に行く機会が増えたが、中国建築賞の審査で中国地方をまわると、つくづく平穏な日常がいかにも有り難いものかを痛感する。さまざまな問題が山積しているにせよ、先人が作り上げたこの国の山野田畑の美しさは世界に誇れるものだ。ただし、建築さえなければ、と付け加えざるを得ない所が悲しいところだ。だからこそ、研鑽の場としてのこの賞の意義があるのだろう。

わずか15年前に神戸を襲った災害の衝撃も人々の意識から遠くなりつつある。人は今日や明日を生きていかねばならない。あつてはならないことだが、非日常の風景を意識の外に置かなければ、生きていけないのも悲しい事実だ。見方を変えれば、それが人間のたくましさだと言うことも出来る。そんな感慨を持ちながらの審査である。毎年、審査委員である広島錦織さんと岡山倉森さんと一緒にできるのを楽しみにしている。広島も岡山も戦争で廃墟に帰した街だ。その原風景からどのように建築家としての人生を歩まれたのか。建物を前にして発せられる言葉の重みに、教えていただくことが多い。

今年も優れた作品がたくさん寄せられたが、委員の先生方と協議して一般建築部門では大賞を出さないことにした。言うまでもなく、大賞はこの地方の建築家にとってベンチマークになる作品でなければならない。その意味で、建築家ばかりでなく多くの一般の方からも賛同を得られるような幅の広さと品格を備えていなければならない。日本建築学会賞の作品賞でさえ、「該当作無し」の年が3回もあった。その気概を示すことで、以後の作品のレベルが上がったことを思えば、前記の条件に照らして、得心の行く作品がなければ、あえて大賞を出さないことも委員長としての責任ではないかと思った。

□ 一般部門

◇大賞 該当作無し

◇優秀賞

『府中市立府中中小学校・府中中学校“府中学園”』
／ 福田卓司・小泉治・藤田雅義

講評：小中一貫教育の先進的な試みを平面の構成でどのように解くかに力点が置かれていた。公立の小中学校もここまで来たか、と思わせるに足る新しい試みだった。



(写真：興水 進)

『せんだ保育園』 ／ 今川忠男

講評：大断面集成材を使った木造二階建ての保育園として先駆的な取り組みだ。その取り組みもさることながら、生み出された空間の伸びやかさが印象的だった。建築家の温かな人柄がにじみ出たような微笑ましい建物だった。



(写真：野村和慎)

『犬島「家プロジェクト」』 ／ 妹島和世

講評：いまや世界的な建築家になりつつある妹島さんの現在進行形のプロジェクトだ。ひとつひとつのパビリオンが強い個性とメッセージを持っている。アートと建築によって過疎の村がどのように変容していくのか、今後その物語りが完結した時が本当の評価を得る時だろう。



『松江歴史館』 ／ 矢田和弘

講評：敷地が松江城の堀に面していることから、歴史的な街並を強く意識して建てられた建物だ。機能から要求されるボリュームや配置を満たしながら、同時に周辺景観にも配慮するとすれば、おそらくこれが唯一の答えの出し方だろう。完成に至る熱意に敬意を表したい。



(写真：佐藤和成)

『松園』 ／ 江角俊則

講評：昨年度の住宅部門の大賞に輝いた江角俊則さんの作品。小品だが、素材の扱いやディテールにこだわり抜く姿勢は貫かれている。どのような種類の建物を依頼されても、自分の作風的手中に収めてしまう手腕に脱帽する。



□ 住宅部門

◇大賞

『森のすみか/nest』 ／ 前田圭介

講評：書類審査では、少し過激に行き過ぎているのではないか、その思い切りのよさが住む上での不自由さに繋がっているのではないか、という印象を持ったのだが、実際に行ってみると、それはまったくの杞憂だった。実に鮮やかに、それも清々しく、それらの問題をクリアーしていた。それどころか、大胆な構想が新しい住空間の在り方を生み出しているとさえ思えた。



(写真：Hiroshi Ueda)

◇奨励賞

『西栗倉の木の家 モデルハウス 2号』
／ 長谷川知子・三木志緒里・下山聡

講評：主体が村で、木材振興を主眼に建てたモデルハウス。これは特定個人を対象とした住宅とは言い切れないし、さりとて不特定多数を対象とした一般部門とも言い切れない。しかし、村づくりや木材振興に対する取り組み自体は、建築にたずさわる者のひとりとして評価したいし、作品もその意を受けて丁寧な仕上がりだ。以上のような理由で、今年は特別に奨励賞を設けていただき評価することとした。



(写真：石原 清)

活動報告

■ 2011年度通常総会

2011年4月28日（木）ホテルセンチュリー21広島にて通常総会が開催された。2010年度の事業報告と決算報告、2011年度の事業計画と収支予算が承認された。

■ UIAキャラバン職能シンポジウム

通常総会后、同場所に於いて村重UIA特別委員長の司会により、講演及びシンポジウムを行った。

□ 基調講演

「建築基本法のねらい」 講師：神田順〔東京大学教授〕



（講演風景）

最初に経緯として前置きを述べられ、次の4つのテーマについて講演を行った。

1. ものづくりと基準

尺貫法の禁止が木造建築や和服の製作のプレーキとなっている。また、規定ばかりの設計が創造性を失わせている。

材料の特性のすべてが計算できるわけではなく地域性、文化性の豊かさの再認識が必要だと思う。

例えば、伝統木造建築は、法律のできる以前からあった技術の質であり、材料の市場性を計りながら建築主の意向を聞いて専門家の役割を果たしている。法律や基準がなければ仕事ができないという事を見直していくべきだと思う。

2. 建築基準法の作った世界

はじめは最低限の基準による質の確保で建築士と建築主事の共通の理解による確認制度の運用であった。今は全国一律の基準による行政指導を可能にする建前としての羈束性になっている

最低限の基準改正が質的グレードとしてではなく項目として量的に拡大、最低基準として詳細記述が矛盾を内包している。これを変えていくのは専門家が判断して正しい事を説明する事が重要である。

3. 持続可能社会における建築

経済成長を規範とした社会から持続可能性を規範した社会へ移行をして、土地基本法、景観3法、住生活基本法、地方分権一括法のねらいの再認識をし、最低基準の社会合意の基準へ向かう必要があると思う。

4. 建築基本法の制定へ

行政による行政のための法改正から脱皮をして、地方主権の生きる建築制度を確立し、社会資産としての建築を作るために専門家としての責任と役割分担して、建築の教育も含めて考えていく必要がある。

最後になりますが、新しい建築基本法の理念のもと建築家の知恵で建築基準法の必要ない21世紀の持続可能社会を作って行こう。三陸の過疎地の漁業の復興まちづくりに、建築専門家の参加を！

□ UIAキャラバン職能シンポジウム

「建築法体形の今後」

パネー 神田順〔東京大学教授〕

芦原太郎〔(社)日本建築家協会会長〕

錦織亮雄〔(社)日本建築士会連合会副会長〕

コーディネーター 松本純一郎〔(社)日本建築家協会元副会長〕



（シンポジウム風景）

中国支部常任幹事 久保井 邦宏

■岡山地域会では他団体と共催・協働の事業を積極的に行っています。

□愛媛バス見学会 7/21（木）

- ・西条市 四国鉄道文化会館／十河信二記念館／南岳山光光明寺
- ・今治市 木造園舎「認定こども園」／丹下健三設計の建建築群
- ・大三島 伊東豊雄建築ミュージアム／ところミュージアム

以上他団体との共催で多くの参加者で行われた。



□県産材利用促進の課題検討会 11/8（火）・2/1（水）

公共建築物等で、岡山県産材利用を促進する上での課題を協議・検討し、建築物を整備する者に対して積極的かつ効果的な情報提供を行う目的で2回開催された。



□東日本大震災復興支援イベント 11/19（土）

それぞれの団体がもつ防災関連活動の実績（ノウハウ・資源）をもと県民・行政と一体となって、従来の公共の概念を越えた新しい感覚でまちづくりを担う人材（特にリーダー）の育成などを行う。そして非常時における防災や復興に関する地域諸問題の解決などにあたる仕組みモデルを提案する。



□坂本一成建築展 岡山実行委員会（4/27～5/20開催を協働準備）

この建築展は、坂本一成氏の建築作品を手がかりにしながら、形と言説の関係を考えることがよりよい建築の在り方を追求するうえで重要であること。さらに住宅と環境等の問題を考え直すきっかけづくりになって欲しい。岡山5団体の文化事業として協働にて取り組む。

以上、建築家として仕事を通して社会福祉の向上に努めることを意識しながら、地域ではJIAとして単独での動きでなく、建築業界が一緒になって社会貢献に繋がる事業ができればいいと考えて活動しています。

■広島アイデアコンペを終えて

2011年に日本建築家協会中国支部等の後援をいただき、JIA会員2名が中心となる広島アイデアコンペ実行委員会主催の「被爆100年広島市中央公園アイデアコンペ」が実施されましたので、その概要を報告します。

□コンペの趣旨

被爆100年となる34年後の広島市中央公園を含むエリアのあるべき姿を求めました。広島平和記念都市建設法を具現化するために、いかなるコンセプトを持って整備したらよいか。現実的な制約条件に捉われることなく、自由な発想で提案をいただきました。

□市民コンペの特徴

市民が自ら提案し、市民の投票により入賞を決める市民参加型コンペです。市民と共に広島市中央公園のあり方を問い直し、広島平和記念都市建設法にうたわれている都市づくりの理念を再確認することを目的としています。

□コンペの流れ

まず応募のあった72点の第1次提案作品をHP上に公開し、協賛いただいた市民の投票により上位5点を選びました。5者は追加の第2次提案を提出し、9月10日（土）に公開プレゼンテーションを行いました。その説明及び質疑の後、市民が投票し、会場投票と事前投票を加算して上位から順に最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点を決定しました。

それとは別に、特別審査委員により上位5点以外から特別賞を2点選定しました。

□審査結果

最優秀賞：古池周文（広島市民球場跡地利用研究会）
優秀賞：堀弘明（広島市民）、市原裕之（清水建設）
佳作：大上泰弘（神戸大学大学院）、鬼頭朋宏/田中雄基（名古屋工業大学大学院）
特別賞：石原滋（広島市民）、高橋志保彦（高橋建築都市デザイン事務所）

□公開討論会

コンペの総括として10月16日（日）、入賞者と特別審査員による「被爆100年の広島市中央公園のあるべき姿・そのコンセプト」をテーマに公開討論会を行いました。

特別審査員4名と入賞者6名が参加し、このエリアの特性や提案作品のコンセプトについて活発な議論がなされ、「平和発信」、「祈り」、「賑わい」、「憩い」の機能を統合する方向性が示されました。

□報告書

今回のアイデアコンペの提案内容、公開討論会等の成果をまとめた報告書を2011年12月19日、広島市長に提出しました。（広島アイデアコンペ実行委員会 瀧口信二）



公開プレゼンテーション会場



プレゼン会場投票



受賞者記念写真



公開討論会会場



作品展示会

■City Switch 2011 出雲

出雲での「City Switch」の活動は今回で3回目になります。前回までは夏休みを利用して、参加学生が40名程度と、それを指導する講師や運営スタッフ及び「City Switch」を実施する地域の地元の人達の総勢100名以上の人達が1週間から10日間にわたって活動してきました。過去2回のこれらのイベント的な活動を通じて、地域での人的ネットワークや継続的に展開してみたいアイデアを見つけることなど成果はありましたが、単発のイベントとゆう限界が感じられました。2011度からはより継続的でより地域に寄り添った運営に成るよう小規模な活動が継続的に実施される体制を試行してみました。具体的には各地域で連休などを利用して参加学生も10名程度としてコンパクトなワークショップを各地域ごとに3回程度実施し、小規模な「City Switch」やイベントを10程度実施する予定でスタートしました。その中で昨年未までに行ったものを報告します。

□ Slow Tourizumo（スローツーリズム）：地域を楽しむモビリティの提案

スローツーリズムは「City Switch 2010 出雲」で発案されたアイデアで出雲地域を走る私鉄の一畑電車と自転車を組み合わせた「まちづくり」の提案です。これは講師として西澤高男氏（ビルディングランドスケープ/東北芸術工科大学准教授）と海法圭氏（海法圭建築設計事務所）の指導によって進めました。「City Switch 2010 出雲」の限られたワークショップの期間中にこのアイデアをもとにどのような体験が可能なのか、プロモーションビデオの形式でまとめ提案を作成しました。それを一畑電車に持ち込んで賛同を得てスローツーリズムのコンセプトをもとに今回2回の一般公開ツアー行いました。あわせて、7月にこのような自転車と電車を組み合わせたツアーをより楽しくするための無人駅のリノベーションを考えるワークショップを東京や地元の大学生、高等専門学校生そして出雲建築フォーラムの若手を中心にしたメンバーに参加してもらい2つの無人駅を取り上げて改修提案を作成し、一畑電車にプレゼンテーションを行いました。早速、一畑電

□ 木綿街道酒石橋の再生：ボトムアップの提案

旧平田市の中心部にある木綿街道は大正期の町並みの残る地域です。今、この地域の中央部にある旧石橋酒造の土地建物の再生活用がこの地域にとって大きな課題に成っています。「City Switch 2008 出雲」以来猪熊純氏（成瀬・猪熊建築設計事務所/首都大学東京所助教）に継続的にこの地域の活動に関わってもらっていますが、今回は今後のより実現性の高い提案に向けて、改めて地域の人達の声を聞くところから始めました。ワークショップには各地



車の方から前向きな反応が得られ、9月にその一つの無人駅である「美談駅」のリノベーションを前回ワークショップのメンバーにシドニー工科大の学生も加わって行いました。今後このような無人駅のリノベーションが継続的に行われればと思っています。又、今回も当初は考えてはいたけど準備期間が短かったため実現できなかったのですが、無人駅の周辺の人達にも参加してもらおうことが出来ればより地域に開かれそして愛着を持ってもらえる駅舎のリノベーションが可能になるのではと考えています。

の大学生や高等専門学校生が1回に10名程度参加し、5月には木綿街道で毎年行われているイベントの折に色々な近くの人達や遠くから来た人達にアンケート実施し、このアンケートも参考にしながら旧石橋酒造の再生と活用の提案を考えることし3日間のワークショップを行いました。3日間と言う短いワークショップでしたが3日間とも夜には地域の人達へのプレゼンテーションをし、デスカッションを行いました。連夜の地域の人達とのデスカ

ッションによって地域の人達と一体となった密度の濃いワークショップになりました。

□ 木綿街道のあかりを福島県二本松市に：

Your Sister City

木綿街道ではイベントにあわせて手作りの行灯で町を飾る活動を10年来

行われていますが、今年はその行灯を3・11の震災と原発事故を受けた二本松市に送りました。「City Switch 2010 出雲」に参加してくれた福島県在住の若手建築家アサノコウタ氏のもとへ行灯が届けられ、二本松市竹田地区での展示や小名浜の追悼イベント「オクリエ」やUDOK「吊いの壁」などでの展示が実現しました。こういったネットワークを個人、地域、行政などさまざまなレベルで張り巡らす壁」などでの展示が実現しました。こういったネットワークを個人、地域、行政などさまざまなレベルで張り巡らすことで拡張された姉妹都市関係（Your Sister City）に再生していくことがより強い社会に繋がるのではと考えます。



今回、イベントの大掛かりなワークショップから日常的で繰り返し行われるコンパクトなワークショップにシフトを変えることで「City Switch」という活動がより日常的になったのではないかと思います。

（島根地域会 龜谷 清）

■第15回 JIA リフレッシュセミナー参加報告

セミナー参加者は北海道から沖縄まで建築家23名と委員会から渡辺真理氏、堀越英嗣氏を含め8名、事務局2名の総勢33名であった。

◎ 1日目：セミナー1「戦後の木造建築」

講師 内田祥哉氏

戦後の『木造建築の禁止と木質資源の枯渇と復活』について時系列で、学会・業界、建築関係行政を含めた講義だった。講義概要：第2次世界大戦の東京大空襲による木造都市火災がある。しかし、戦後の復興は国産材に頼る建築。1959年伊勢湾台風による災害復興研究が進み1959年10月25日建築学会500名全会一致で「木造禁止」が議決された。1949年～59年鉄筋コンクリート造が台頭。不燃化が進む→型枠により木材消費→木材の高騰。RC型枠外材への転換1966年合板型枠。1980年代在来構法研究→日本の伝統構法の再評価、1988年日米シンポジウム「木材と木造建築」1998年西の正倉院（百済の里）伝統木造建築最初の構造評定？2002年永明院五重塔寺社建築最初の構造評定？2003年円福寺本堂寺社建築最初の限界耐力認可？

◎ 2日目：セミナー2「木質構造の展開」

講師 播 繁氏

『木質空間構造の新しい展開』について構造家として携わった建築の画像を見ながらの講義だった。

講義概要：なぜ木造か？建築が大好き、木が大好きだから。高校時代建築のほとんどを学んだ。

建築と一緒に考える構造家めざし人付き合いの勉強。構造家との付き合い方→相性。プロポーションの美しい建築は構造も美しい。空間構造に自然界のエネルギーを取り入れる。作品：出雲ドーム（木とスチールのハイブリット構造）、長野オリンピック記念アリーナ（カラムツとスチールのハイブリット構造）、埼玉武道館（上部木造、下部RCラーメン構造）、愛媛県武道館、愛知万博ゲート（仮設建物・間伐材の集成）、ねむの木学園（紙ハニカム材のスラブ）、木造第3の波・SE工法

◎ クループ別ディスカッションと発表

北海道から沖縄まで23名の建築家が4グループに別れ、材料と構造としての『木』と建築家の役割についてディスカッションを行い3日目にプレゼンテーションを行った。◎今回のセミナーでは日頃扱いなれている材料・構造としての『木』を改めて地域性も含めた多角な意見を聞くことができ、また、参加者の建築家としての意識の高さに触れ、目が覚める思いがした。

岡山地域会 山名千代

■ JIA 中国支部組織表

2011年度 旧日本建築家協会中国支部 委員会組織一覧			
		2011年10月11日	
総務部	総務委員会	委員長 上田 昌仁 (広島) 副委員長 大庭 邦夫 (広島) 委員 山根 誠 (山口) 川口 敏男 (広島)	・全体計画、会計、・組合の企画、運営 ・事務的補助、・社員の福利厚生 ・総務課長の選任 ・本部経費委員会との連携 ・会費納入督促、・事務管理 ・会費手帳作成
	広報委員会	委員長 大石 敏弘 (岡山) 副委員長 長木 寿二 (岡山) 委員 中根 慎治 (山口) 山根 孝治 (岡山)	・本部経費委員会との連携 ・ホームページ管理、更新 ・メール管理 ・新聞掲載、・通達 ・ウェブサイト制作・印刷 (文芸、本誌) ・本部機関誌編集
	建築部	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・CD、DVD ・入会への対応 ・新卒の指導 ・講習会等
	建築情報委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・建築情報への対応
本部	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
地域部	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営
	委員会	委員長 水見 謙一 (山口) 副委員長 三原 昌樹 (広島) 委員 塚田 隆 (山口)	・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営 ・本部事務局の運営

■中国支部会員リスト

平成24年3月末現在149名

<岡山> (50名)

赤木 定、赤澤輝彦、岩本弘光、石原節夫、上田恭嗣、宇川民夫、大石雅弘、大倉修典、大角雄三、大丸松治、神家昭雄、神田二郎、岸本泰三、貴田茂、木村旭、倉森治、黒川隆久、佐々木満、佐藤正平、佐野宜夫、柴田晴夫、芝村満男、塩飽繁樹、新谷雅之、菅野憲、高田一、武田賢治、土田利行、寺越則人、中根慎治、中田利幸、植村徹、中村陽二、羽羽雅人、則武克也、花田則之、藤澤敏典、藤田佳篤、松本正富、丸川真太郎、宮崎勝秀、森原通仁、柳勝巳、山田孝延、山田 暁、山名千代、湯浅康生、吉井 深、渡辺俊雄、和田洋子

<広島> (51名)

石田平二、今川忠男、岩本秀三、宇佐美紀、遠藤吉生、大江弘康、大旗 健、岡河 貢、小川 晋一、沖本 初、奥迫真一、奥田實、梶本正博、河口佳介、久保井邦宏、高畑憲明、後藤重賢、境郁生、坂本重幸、佐々木 著、三分一博志、杉田輝征、高志俊明、高橋幸子、瀧口信二、竹内謙治、谷尻 誠、垂井俊郎、千原康弘、堤 敏明、土井一秀、土井良介、東宮年一郎、土肥品仁、仲子盛進、中園哲也、奈波和明、錦織亮雄、西田一好、濱田昌範、平田欽也、藤本和男、藤本寿徳、堀江淳、前岡智之、前田圭介、三島久範、宮野昇啓二、宮本 剛、元廣清志、八納啓造

<山口> (19名)

石丸和宏、内田文雄、久保紳哉、窪田勝文、栗林 隆、佐田祐一、田尾 繁、田中輝幸、谷川清志、中村正俊、長野英彦、永見龍一、西村彰和、原川伸二、松崎強司、三村夏彦、村重保則、山下宏、山根満広

<島根> (22名)

安部喜孝、石倉保富、江角彰宣、江角俊則、尾川隆康、小早伸春、金坂浩史、龜谷 清、白根博紀、櫻石友秋、田原辰男、寺本和雄、原 浩二、古山篤史、牧戸捷弘、増野元泰、松倉慎治、三原貞則、矢田和弘、矢野敏明、山根秀明、渡部孝幸

<鳥取> (7名)

足立收平、川中節男、杵村優一郎、木下正昭、米間直樹、塚田 隆、萬井博行



The Japan Institute of Architects

アニュアルレポート（支部活動報告書）中国 2011

— 発行 —

平成 24 年 4 月

— 制作 —

社団法人日本建築家協会中国支部

〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル

TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755

URL <http://www.jia-chugk.org>

— 表紙 —

株式会社松岡製作所（交流部会）

専務取締役 松岡 剛

— 印刷 —

（有）アウルズコーポレーション